

広告

企画・制作=日本経済新聞社  
クロスメディア営業局

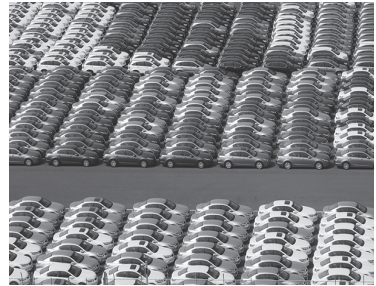
# 成長企業特集 ~中部を支える上場企業~

企業の業績改善が着々と進み、製造業を中心に世界市場でも確かな存在感を発揮する中部経済。その好調の要因は何か。そして未来への方向性とは。中京大学経済学部 客員教授の内田俊宏氏に聞いた。

## グローバル市場を取り込む中部経済 円安で堅調な企業業績

足元の中部経済は、堅調を維持している。な世界経済や外国為替市場での円安を背景に、自動車や工作機械などの製造業を軸として景況感は大幅に改善している。自動車産業は海外市場での販売が好調で、円安による輸出採算の改善と合わせ業績を押し上げている。また、人手不足を背景に国内外で省力化・自動化の設備投資需要が高まっており、工作機械メーカーの受注環境の好転も著しい。名古屋証券取引所に上場する中部企業の2017年9月期の中間決算は、主要企業の約7割で純損益が前年より改善しており、4社に1社が過去最高の純利益を達成している。

中部の最大の強みは、少子高齢化により縮小傾向にある国内市場以外にも、成長性が高いグローバル市場で高いシェアを誇っている点にある。名古屋税関管内の輸出額は、自動車輸出が堅調に推移している。自動車部品や工作機械輸出は前年比2桁増を記録し、中国などアジア向け輸出が寄与し中部の生産活動は高水準



## 最先端の次世代製造業と リニア&アジア大会の二大プロジェクト

次世代産業に目を転じる。高まっている。と、次世代自動車や国産ジェット旅客機MRJ、ロボット産業など、日本の最先端技術の大部分が中部に立地していることが分かる。中部にマザー工場や研究開発拠点を持つトヨタ自動車は、本格的に電気自動車(EV)シフトを強めており、燃料電池車(FCEV)を含めた電動車開発を加速させている。標準化された部品によるモジュラー型のものづくりへの対応も進め、自動運転技術に関する研究開発や実証実験も加速している。トヨタ自動車は全方位的に次世代自動車開発を進めており、第4次産業革命が進展する中、将来にわたり海外市場で高いシェアを獲得する可能性がある。

さらに名古屋駅周辺で、27年に予定されるリニア中央新幹線の名古屋1品川間の先行開業を見据えた再開発が進んでいる。名駅と栄地区では、東京駅周辺並みの容積率1300%の規制緩和も検討されている。27年のリニア開業と前年の26年に開催される夏季アジア競技大会の二大プロジェクトに向け、道路ネットワークなどのインフラ整備や名古屋都心部でのオフィスビルやマンション、商業施設などの再開発計画も目白押しである。三大都市圏が一つの巨大都市圏として融合するスーパーメガリージョン構想の中で、中部圏の存在感は際立っている。



中京大学経済学部  
客員教授  
内田 俊宏氏

上場市場 東京証券取引所 JASDAQ

証券コード 3035

所在地 名古屋市中区東二丁目3番3号  
TEL/FAX 052-931-1881 / 052-932-5459  
URL http://www.ktk.gr.jp/

## ktk ケイティケイ 株式会社

### リサイクルトナーのリーディングカンパニー

当社は、1971年の創業以来、プリンター消耗品であるトナー、インク、リボンなどのリサイクル商品の製造販売を中心に、環境とコストに貢献するとともに、あらゆる文具事務用品をワンストップで提供しております。直近の事業年度においては、経常利益、当期純利益ともに上場来最高益を更新しており、更なる成長を遂げるべく邁進してまいります。

決算概要	売上高	168億60百万円	1株当たり当期純利益	38.33円
	経常利益	2億52百万円	自己資本比率	34.3%

※2017年8月期 連結